



座・高円寺は、初代館長の斎藤憐さんや芸術監督の佐藤信さんから劇場の構想を伺った時から、コマースィヤリズムに走らず、一つの理想に向かっていく姿勢が素敵だなと感じていました。

新宿育ちの僕は、10代の頃、「天井桟敷」のようなアンクラ演劇に夢中でした。でもとてもあんな風にはできないと思って、もう一つ大好きだった音楽に進んだんです。自分では芝居ができる人間だとは思っていません。だから「俺なんかいない」という気持ちで舞台に立っています。余計な自意識は必要ない。大切なのは不自然でなくその場に居られるかどうか。演じる時は自分をシャットアウトしたいなと思っています。

今回はテレサ・ルドヴィコ演出で新作『ピノキオ』(2面参照)を上演します。前作『旅とあいつとお姫さま』は即興性の高い芝居だったので、芝居に柔軟に対応できる生演奏にこだわりました。役者としても5つの役を演じ分けたので、結果として自分で自分のクビをしめるようなことになりましたが(笑)。

宮沢賢治原作の『ふたごの星』は音楽担当です。賢治の書いた有名な「星めぐりの歌」は譜面としては未完成なんです。それ

座・高円寺が事業の柱とする「あしたの劇場」は、子どもたちと一緒に楽しむプログラム。KONTAさんは、毎回、役者として、そして音楽担当としてエネルギーにかかわってきました。柔らかな物腰に秘めた舞台への思いとは――？

ミュージシャン 俳優 KONTAさん

を今聴いても違和感のない音楽として成立させるのは、われわれの責任だろうと考えました。僕自身、常にスタンダードなものを創っていきたい、はやりすたりに関係なく息の長い作品をこの思いがあります。『ふたごの星』は毎年区内の小学校4年生が観ているので、「この曲、知ってるぞ」と気づく子が大勢いるかもしれません。それを思うとうれしいですね。

昨年、座・高円寺で子どもたちの描いた絵を前に舞踏家とパフォーマンスしたのも楽しかったです。「音を書いてみよう」というワークショップで描いた作品だったのですが、見ているうちに絵から「わく」と音楽を感じたんです。子どもたちのためのワークショップはもう一回フィードバックすることが大事だと思うのですが、ここはそれができる数少ない場所かもしれません。また機会があればやってみたいですね。

スタンダードと呼べる作品を創っていききたい



Profile プロフィール

パービーボーイズのヴォーカル兼サックスとして活躍後、ミュージシャン、俳優、パフォーマーとして多彩な活動を行う。前衛音楽からロックまで幅広い音楽知識に加え、美術や文学にも造詣が深い。